

# わが

## 「食の循環によるまちづくり」で 市民を「健康」と「幸せ」に

### 新発田市の紹介

新発田市は越後平野の北部に位置し、県下有数の良質なコシヒカリの産地として知られる新潟県北部の中核都市です。

城下町のシンボルである新発田城は、かつて失われた三階櫓と辰巳櫓を平成16年に復元し、「日本100名城」に選定されました。



日本100名城にも選出された新発田城

産業では、米作を中心とした農業と食品加工業が盛んに行われており、また観光業では美人になれる温泉として有名な「月岡温泉」に多くの人々が訪れています。

### 食の循環によるまちづくり

本市では、「食の循環によるまちづくり」により、健康で心豊かな人材の育成、産業の発展、環境との調和、まちのにぎわいなどによる「地域の活性化」と「市民生活の質の向上」を目指しています。

### 肥料づくり・土づくり

市内の3カ所に有機資源センターを設置し、これまで廃棄物として処理されていた家畜のふん、各家庭、学校給食から搬出される生ごみ、農業集落排水等の汚泥などを原料に肥料を生産し、この肥料の農地への還元によって農薬や化学肥料に頼り過ぎた大地の再生を進めています。

また、市と民間事業者の共同で、農業集落排水施設や食品産業から

排出される汚泥と米のみ殻を混合してたい肥化した肥料などから、法面の緑化工事の植生基材(資源循環型植生基材)を開発し、これが新潟県の「Made in 新潟 新技術普及・活用制度」に登録され、資源循環型植生基材として大いに活用が期待されています。

### 高機能性食品の生産、 農業6次産業化へ

たい肥を活用した土づくりと、農薬などの使用を抑えた農産物の生産を進め、こうした「食の循環」から生み出された農産物の代表が「新発田産アスパラガス」で、今や新潟県の出荷量を誇っています。土づくりからこだわって栽培したアスパラガスは、大きくてかつ甘味があり、非常に柔らかくて、ゆでたり焼いたりときさまざまな料理で楽しむことができます。

### 販路拡大へ

よねくら 米倉地区にある直売所では、近

くの有機資源センターで生産されたたい肥を使って栽培した農産物や農産加工品を、エコファーマーの認定を受けた生産者が直接販売しており、安全・安心で新鮮な農産物を求めて多くの人々が訪れます。

また、市内各所の農畜産物直売所巡りを楽しんでもらおうと、マップを作成したり、J A北越後では新発田産農産物を首都圏のスーパリーなどでPRしたりと、新発田産農産物の販路拡大に努めています。ゆくゆくは首都圏にアンテナショップを開設し、新発田の食品を大いに売り込みたいと思っています。

### 調理し、食べることに 取り組む

本市では、食生活改善推進委員が栄養のバランスの取れた食生活の大切さや、郷土料理の継承に取り組んでいるとともに、食育では市独自に、市内全小・中学校、幼稚園・保育園の教育活動の中で「食の循環」について学び、体験することで、豊かな心や生きる力を大きくむことを目指す「食とみどりの新発田つ子プラン」を実施しています。また、家庭、幼稚園、保育園、小・中学校や飲食店などにおいて、

食べきり、食べ残し削減の呼び掛けとして「食の循環しばた」モットー「イナイ運動」に取り組んでいます。しかし、どうしても調理くずや食べ残しなどの生ごみが出るので、これらをひと手間掛けることで大切な資源としてたい肥づくりに活用し、食の循環の輪をつなげています。

### 「食の循環しばた」を全国へ

本市では日ごろから農業に取り組む俳優の永島敏行さんを「しばた食の循環大使」に任命し、本市の取り組みを全国発信してもらい、また、新発田の「食」にゆかりのある方々に「しばた食の循環応援団」になってもらい、バックアップしてもらっています。

### 「新発田の食」を「賞味あれ

本年の9月には「国際ご当地グルメグランプリin月岡温泉」を開催し、



「国際ご当地グルメグランプリin月岡温泉」表彰式

県内外、外国の39のご当地グルメが出店し、秋晴れの下、2日間で5万9000人の来場者でにぎわいました。そのほかにも月岡温泉では、「越後の酒天湯子」や「月岡ライスボウル」などの食のイベントが盛りだくさんです。

また、毎年1月に開催される「新発田雑煮」と全国各地の雑煮が日本一を競う大人気のイベント「城下町

### プロフィール

- ◆ 面積 532・82km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 10万2997人
- ◆ 世帯数 3万4935世帯

〔将来都市像〕住みよいまち日本一健康田園文化都市、しばた

〔まちの特徴〕城下町の歴史と文化、全国的にも有名な月岡温泉、山から海までの豊かな自然など、たくさん魅力を持つまち

〔市町村合併〕平成15年7月7日に豊浦町、平成17年5月1日に紫雲寺町、加治川村を編入合併



新発田市長 二階堂 馨



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## ひととまちがキラリとかがやく 市民文化交流都市を目指して

はじめに

埼玉の母なる川「荒川」の土手からは、田園風景の中に裾野が広がる雄大な富士山を一望できます。このほか市内の随所で、市名の由来となった富士山の素晴らしい眺めを楽しむことができます。

富士見市は、埼玉県の南西部にあり首都30km圏に位置しています。地域の西側を東武東上線が縦断し、池袋まで30分、さらに地下鉄有楽



市内から望む富士山

町線に加え、地下鉄副都心線の相互乗り入れにより、渋谷まで直線で50分という距離にあります。広域幹線道路は、国道254号などが地域の中央、南部、西部を走り、交通の軸となっています。また、地域の東側を荒川、中央を新河岸川、西側に柳瀬川がそれぞれ流れています。

地形は武蔵野台地から荒川低地にかけて広がり、台地の縁辺部には斜面林が帯状に連なり、武蔵野の面影を多く残しています。首都近郊にあつて貴重な自然や、歴史的資産である水子貝塚公園や難波田城公園などがあり、これらの資産を生かしながら住宅都市として発展してきました。

### 第5次総合計画がスタート

本市は、これまで人間尊重と市

民生活を優先したまちづくりを進めてきました。そして市民の多様な経験や活動をまちづくりに生かし、市民参加・協働をより確かなものとするため、平成16年に「富士見市自治基本条例」を制定し、さまざまな施策に取り組んできました。

平成21、22年度には、市民会議や地域別懇談会、中学生との未来会議など、さまざまな市民参加の手法を用いながら、将来都市像を「ひととまちがキラリとかがやく市民文化交流都市」としての絆と和の地域が主役のまちづくりとする第5次総合計画を取りまとめました。

そこで本年度から、この計画を具体化し、市民相互の交流により地域の輪を広げ、地域の力を生かしたまちづくりを推進するため、市の組織を再編し、取り組んでいます。

### 子育てするなら富士見市で

本市では、全人口に対する14歳以下の若年層の割合が、平成21年は14%となっています。また、平成27年には12%、平成32年には11%になると予想しています。人口のバランスはまちづくりに大きく影響するため、子どもを安心して生み育て、健やかに成長できる環境づくりに取り組んでいます。平成22年には、中学校3年生までの子どもの入院と通院の医療費を無料化し、保護者の経済的負担を軽減しています。また、待機児童を解消し、保護者が安心して働くことができるよう、放課後児童クラブの増設や民間保育園2園の整備に対する補助などを行ってきました。さらに、市内のすべての小中学校の校舎、体育館の耐震化を終了し、安全な環境の下で学校生活を送ることができるようになりました。また、小学校では、学校応援団として保護者・地域の皆さま

まによる、子どもの見守り、本の読み聞かせ、授業の手伝いなど、さまざまな分野で、それぞれの知識や特技、経験などを生かした取り組みが行われています。近年は、悩みを持つ子どもや保護者が増える傾向にあり、相談体制の充実とともに子育て親子の交流、子育てサークルへの支援にも努めています。また、本年度から、新たに「子ども未来部」を新設し、子育て施策を一元化し、取り組んでいます。

### 地域の個性と力を生かしたまちづくり

#### ●文化芸術振興条例の制定

本市には、先人から受け継いだ数々の文化資源があります。また、「富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ」「ふじみ野交 流センター」や各公民館などでは、新たに創出された豊かな文化芸術活動が行われています。今後、より多くの市民が文化芸術に触れ、心の豊かさを感じら



全国に先駆けて行われた「富士見市事業仕分け」

る市民文化の創造を目指し、「(仮称)富士見市文化芸術振興条例」の制定と「文化芸術振興計画」を策定します。条例制定に向け本年6月に策定検討委員会を設けるとともに、市民文化会館初代芸術監督の劇作家・演出家の平田オリザ氏、本市に在住で宮内庁式部職楽部指揮者の北原幸男氏に富士見市文化芸術アドバイザーを委嘱しました。これにより、本市の文化芸術資源を生かしながら、市民の主體的な文化芸術活動を推進し、次世代を担う子どもたちの豊かな心の育成、市民の交流、地域の活性化を図ります。

#### ●活力ある地域づくり

少子高齢化は、地域の産業やコミュニティの持続性、文化の継承などまちづくりに影響を及ぼしています。特に、危機感が強い地域では、「まちづくり協議会」を設置し、まちづくりの事例研究や制度の研修などを行い、農業生産基盤を維持しながら、新たな土地利用による定住環境をつくるため、市と検討を進めてきました。そこで本年、市街化調整区域において一定の条件の下に、戸建て住宅を建てられるよう「都市計画法に基づく開発許可等の基準に関する条例」の

一部を改正しました。こうした手法に、産業、観光、余暇活動などを組み合わせ、自然環境と調和した計画的な土地利用を進め、バランスの取れた活力ある地域づくりを推進していきます。

### 市制施行40周年を迎えるに当たり

本市は、昭和47年4月に市制施行し、平成24年に40周年を迎えま

す。また、文化芸術の拠点である「富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ」も、同年に開館10周年を迎えます。本市の足跡を振り返り、未来に向けた新たな歩みとして、企画立案から実施に至るまで市民と協働で記念事業の準備を進めています。地域の資源を再度見直し、「ひとと人の絆」をより深め、「ひととまちがキラリとかがやく」まちづくりを推進していきます。

### プロフィール

- ◆ 面積 19・70km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 10万5985人
- ◆ 世帯数 4万5824世帯

〔将来都市像〕ひととまちがキラリとかがやく市民文化交流都市と人との絆の和の地域が主役のまちづくり

〔まちの特徴〕市名のとおり市のどこからでも富士山が眺望できる。市の面積の約4割が市街地、約6割が自然豊かな田園や農地が残るまち



富士見市長 星野信吾



- 〔特産品〕ナシ、みそ、カブ、ハウレンソウ
- 〔観光〕水子貝塚公園(国指定史跡)、難波田城公園、びん沼自然公園、山崎公園(せせらぎ菖蒲園)
- 〔イベント〕富士見ふるさと祭り、つるせよさこい祭り、水子貝塚星空シアター、縄文マラソン、難波田城公園まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

## 自ら考え行動し、共に助け合う地域協働のまちづくり 市民との協働によるまちづくりを目指して

### 豊かな資源と 地理的利便性を生かして

平成17年4月1日、旧朝来郡4町(生野町・和山町・山東町・朝来町)が合併した朝来市は、兵庫県のほぼ中央部に位置し、播磨地域と但馬地域、京都と山陰を結ぶ交点にあり、古くから交通の要衝として発展してきました。

総面積の4分の3を森林が占め、多様な豊かな自然資源は市最大の地域資源であり、企業の「カーボンオフセット事業」や、東京都港区が協定先の自治体などの木材を優先的に建築資材として活用する「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」にも参加しています。

また、本市には、近畿地方最大規模を誇る茶すり山古墳をはじめとする多くの古代遺産、国史跡の

竹田城跡や史跡の生野銀山など中世から近世にかけての遺産、また、由緒ある神社・仏閣・各地に伝わる伝統芸能などの歴史文化遺産が数多くあり、これらの多くの遺産を有効に利用しつつ、広域交流拠点のまちとして「人と緑 心ふれあう 交流のまち 朝来市」を目指しています。

### 今、天空の城「竹田城跡」が すごい

標高353.7mの山頂に位置する竹田城跡は、嘉吉年間(1441~1443)に但馬の守護大名・山名宗全が基礎を築いたとされ、太田垣氏が7代にわたって城主となりましたが、織田信長の命により秀吉の但馬征伐で天正8年(1580)に落城。最後の城主・赤松広秀が豪壮な石積みみの城郭を

整備したといわれています。縄張りの規模は南北400m、東西100mに及び、完存する石垣遺構としては全国屈指のもので、平成18年には日本城郭協会により「日本100名城」に選定されました。自然石を巧みに配置した近江穴太衆による石垣は、400年を経た今も当時の威容を誇っています。

また、竹田城跡周辺では秋から冬にかけてのよく晴れた早朝に朝霧が発生し、雲海に包まれた竹田城跡は、まさに天空に浮かぶ城を思わせ、今や但馬地方の秋冬の風物詩となっています。この幻想的な風景を一目見ようと全国から大勢の人々が訪れています。

近年の戦国歴史ブームや日本100名城の選定などにより竹田城跡を訪れる観光客は、2年前と



天空の城とも称される国史跡「竹田城跡」

### 自ら考えて自ら行う地域 住民が主役のまちづくり

人口減少、少子高齢化が進行し(平成23年3月末現在の高齢化率29.5%)、集落の後継者不足など地域社会の安定した運営が困難になっていく中で、市民が必要とする行政サービスは年々多様化しています。このような状況を踏まえ、持続可能な地域をつくらせていくために、また、分権型社会に対応し、自立した自治体経営や市民起点的行政への転換を行っていくために、市民一人一人の英知を結集させながら市民と行政が共に汗をかき力を合わせていく「地域協働のまちづくり」を進めています。

本市の「地域協働のまちづくり」は、市民や自治会をはじめとする



地域自治協議会による高齢者の買い物支援サービス

地域団体、事業者などと行政がそれぞれの役割と責任を分担し合い、連携・協力して取り組んでいくというもので、地域の夢を実現したり、地域課題の解決に向けて地域で考え、行動することを基本としています。

このように持続可能な地域づくりを進めるために、地域のさまざまな団体や個人が参画し、地域づくりの活動の中心となるのが、おおむね小学校区を単位とした新たな地域自治組織「地域自治協議会」です。この地域自治協議会の活動を通して、自分たちで自分たちのまちをつくらせていくという自治の精神で、地域特性に応じた安全・安心のまちづくり、高齢者支援策、子育て支援策、農業をはじめとした産業の活性化などさまざまな分野において公共的な活動が展開されており、多くの地域住民が生き生きと地域社会にかかわっています。

### 職員も地域の一員として

地域協働を進めていくための行政の支援策として、地域の創意と工夫、地域の判断と責任に基づいて、主体的な地域活動を展開するため「地域自治包括交付金」を交付

しています。この交付金には、協議会の事務局機能を強化する観点から事務局職員を雇用するための経費も含まれています。また、行政職員が地域のまちづくりを支援する「地域担当職員制度」も設け、円滑な地域自治協議会の運営のための助言、情報提供などを行っています。こうした制度的なものだけでなく、職員自らも地域社会の一員として生活する中で、市民と

ともに考え行動し、率先してまちづくりにかかわっていくよう、「朝来市自治基本条例」では職員の責務においても明記しています。このようにして職員が積極的に地域に飛び出し、活躍するとともに、活動を通して地域住民とのコミュニケーションを深め、行政運営に反映させることにより、さらに「地域協働のまちづくり」が深化していくものと期待します。

### プロフィール

- ◆ 面積 402.98 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万3530人
- ◆ 世帯数 1万2253世帯

〔将来都市像〕人と緑 心ふれあう 交流のまち 朝来市

〔まちの特徴〕日本海に流れる円山川と瀬戸内海に流れる市川の源流地域で兵庫県の南北の分水嶺のまち。但馬・山陰地方と京阪神大都市圏を結ぶ交通の要衝の地

〔市町村合併〕平成17年4月1日 旧



朝来市長 多次勝昭



朝来郡4町(生野町・和山町・山東町・朝来町)が合併  
〔特産品〕岩津ねぎ、黒大豆、ピーマン、生野ハヤシライス、元氣井(経産但馬牛)  
〔観光〕竹田城跡、生野銀山、あさこ芸術の森美術館、朝来市埋蔵文化財センター「古代あさこ館」、大町藤公園「イベント」たたらぎダム湖マラソン大会、但馬・食文化まつり、藤まつり、銀谷祭り、生野・竹田秋祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 日本一晴れの国浅口 —おいでよ、はまるよ、浅口へ!—

## はじめに

浅口市は、岡山県南西部に位置し、北に遙照山、南に瀬戸内海を擁する自然豊かなまちです。また、全国的にも大気が安定し、雲のかからない日が多いため、遙照山の西隣に位置する竹林寺山には国内最大級の天文台がそびえ、現在、3.8mの望遠鏡を有するアジア最大級の天文台の建設も計画されています。



日本最大級の国立天文台 岡山天体物理観測所

さらに、地場産業も盛んで、金光の植木・鴨方の手延べ麵・寄島のカキや

ガザミ(ワタリガニ)などの特産物をはじめ、多くの魅力ある地域資源に恵まれています。

これまで、私自身、本市が有するこれらの美しい自然環境と歴史と伝統、個性と魅力ある地域資源をメディアなどへ出演することで積極的にPRしてまいりました。それは、市外の方だけでなく、市民にも本市の素晴らしさを再度認識し、良さを見つめ直し、今以上に愛着を感じていただきたいの思いかからでもありました。

## 豊かな自然と地域資源

現在、本市では、里山や海といった自然景観や史跡などの地域資源を生かし、市内全域を対象としたトレッキングルートの開発事業に力を入れていきます。全国的にトレッキングや登山がブームとなっている今、瀬戸内海のも鳥美を一望できる遙照山への登山者も年々増加しております。ルートの選定

やマップの作成、看板などを整備し、市内外からの大勢のお客さまに市内の豊かな自然に触れ、ルート内に組み込まれた観光施設に足を運んでいただくことは、健康づくりの推進のみならず、本市の持つ魅力を広く内外に発信し、ひいてはまちづくりにもつながっていくものと、大変期待しております。今後、今年度末までに、10コースほどの選定とマップの作成や案内看板などの整備を進めていく予定です。

## 市営バス 浅口ふれあい号

近年、地域公共交通が長期的に衰退していく中で、超高齢化社会を本格的に迎え、高齢者を中心とする方々の移動手段の確保が地域にとって大きな課題となっており、本市も例外ではなく、このような課題に対応していくため、平成22年4月に浅口市長に就任して以来、市内を循環する市営バスの運行に

向けて準備を進め、今年4月に市営バス「浅口ふれあい号」の運行を開始いたしました。金光・鴨方・寄島各地区に2ルートずつ、病院、公共施設、スーパーなどを結び、それぞれ週2日運行しています。

全国で約600万人ともいわれる「買い物難民」を市内において少しでも減らしていくとともに、本市でいづまでも安心・快適に暮らすことができ、かつ、生涯現役で生き生きと元気に過ごしていただくことのできるよう、今後より利便性の高いバスを実現してまいりたいと考えています。

## 子育て王国あさくち

本市の未来を担う子どもたちの健全な成長と命を守り、子どもを生み育てやすい環境を整えることは、地方の行政施策においても進められるべきものと考えます。そのため就任後は、特に子育て世代の要望の強かった子ども医療費の中学校卒業までの無料化や幼稚園・保育園の保育料軽減に優先して取り組みました。未来を担う人材に對して、手厚く投資を行っていくこと

が、夢や希望あふれる本市を創造するものであり、そのためには、家庭、学校、地域、行政、それぞれの果たすべき役割を認識し、互いの連携を図り、地域ぐるみで子育てのしやすい環境を整えなくてはなりません。

近年、子どもたちを取り巻く環境は変化し、いじめや児童虐待などが社会問題化している中で、全国的に不登校の児童や生徒が増加している傾向があります。このような問題にも対応していくために、阿蘇伯海記念公園内に「適応指導教室」を開設し、不登校児童生徒の学校復帰への援助を行うとともに、幼稚園・小学校・中学校への生活支援員の配置比率も県内トップレベルまで引き上げ、子どもたちの学習習慣や生活習慣の確立に取り組んでおります。

また、地域のボランティアの方々により、小中学校の運営をサポートする「学校支援地域本部」の活動が平成22年度から本格的に始動しました。各学校における学習の補助、地域行事への支援、登下校の安全指導など、さまざまな経験を持つ市民が学校教育にかかわりを持ち、子どもたちと触れ合いを持つことよって、子どもたちの豊かな心がより一層育まれ、市民とともに「子育て王国あさくち」の実現に取り組んでいけるものと考えています。

また、地域のボランティアの方々により、小中学校の運営をサポートする「学校支援地域本部」の活動が平成22年度から本格的に始動しました。各学校における学習の補助、地域行事への支援、登下校の安全指導など、さまざまな経験を持つ市民が学校教育にかかわりを持ち、子どもたちと触れ合いを持つことよって、子どもたちの豊かな心がより一層育まれ、市民とともに「子育て王国あさくち」の実現に取り組んでいけるものと考えています。

## 市民とともに進めるまちづくり

本市は県内で最もコンパクトな市であり、行政と市民との対話により、地域の実情、ニーズを的確に市民生活に反映させることのできる強みを持ちます。また、政治の課題、解決策は「市民との対話」現場にあるというのが私の政治姿勢でもあり、こういった考えのもと、市民とともに行政改革を進めていくため、平成22年11月には市民が仕分け人となり参加していただく事業仕分けを実施いたしました。公募を含めた22名の市民に評価者として、非常に活発かつ有益な議論をいただきました。行政改革はさることながら、市民が参加し、共にこれからの本市の将来を議論していくことは大変重要であると考えています。情報公開はもとより、これからも市民に参加していただける機会や場づくりを積極的にまいります。

また、私自身の取り組みとして、市民の皆さんと昼食をとりながら、市政への意見や提案などを気軽に話し合う「ランチミーティング」や私が市民の皆さんのところへ出向いて、市政の特定のテーマを話し合う「出張座談会」も行っていきます。こうした取り組みを通じて、市民の率直な意見や本音を聞き、それを着実に政策に反映させていくことが非常に重要と考えています。

## おわりに

これからの市政を考えると、社会環境の変化が大きい時代にあつて、多様な価値観から生まれる行政需要に応えていくためにも、また、魅力と誇りに満ちた地域社会の実現のためにも、行政と市民との対話・協調を基本としながら、共に考え、共に行動し、自分たちのまの形は自分たちでつくっていくといっ

た考え方が尊重される地域社会を築いていかなければならないと考えます。先に述べたような、先人が培った本市の持つ貴重な「個性」と「魅力」をこれからも財産として存分に生かしていきたいながら、いつまでも市民として誇りを持つことができる浅口市をつくっていく、そういった気概を行政と市民が一緒になって育んでいくことのできるまちづくりを目指してまいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 66・46 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万6812人
- ◆ 世帯数 1万3763世帯
- 〔将来都市像〕 快適・安心・思いやり 活力あふれる文化創造都市

〔まちの特徴〕 岡山県南西部に位置する県内で最も小さな面積の市。瀬戸内の温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれ、古くから地場産業が栄えている。

〔市町村合併〕 平成18年3月21日、金光町、鴨方町、寄島町の3町が合併



浅口市長 栗山康彦



※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」(平成23年9月末現在)による。